

成績概要書（作成 2009年1月）

研究課題名：たまねぎ新品種候補「HT46」

（予算課題名：良食味・高貯蔵性たまねぎ新品種育成（平成16～20年））

担当部署：北見農試 作物研究部 畑園科，ホクレン農総研 園芸作物開発課

予算区分：共同（民間）

研究期間：2004～2008（平成16～20年）

1. 主要な特性

系統名 HT46 組合せ PR94504-01-03A/PR94517-01-01m1M

特徴	長所 「スーパー北もみじ」より大球・多収であり 加工用に適する。			短所 乾腐病に弱い。						
普及対象地域および普及見込み面積 全道のたまねぎ栽培地帯 150ha										
調査場所		育成場 北見農試		育成場 ホクレン			地適検定・現地 全道9カ所・19事例			
調査年次		平成17～20年		平成18～20年			平成18～20年			
品種・系統名 項 目		HT46	スーパー北もみじ (標準)	純心 (参考)	HT46	スーパー北もみじ (標準)	純心 (参考)	HT46	スーパー北もみじ (標準)	純心 (参考)
早晩性 ^{注1)}		晩の中	晩の中	晩の晩	晩の中	晩の中	晩の晩	晩の中	晩の中	晩の晩
肥大期(月日)		7. 22	7. 21	7. 22	－	－	－	7. 12	7. 13	7. 14
倒伏期(月日)		8. 15	8. 13	8. 17	8. 6	8. 2	8. 8	8. 8	8. 7	8. 10
生育調査(7月下旬)										
生葉数(枚)		9. 2	10. 2	9. 1	－	－	－	－	－	－
草 丈(cm)		95. 7	82. 9	87. 7	－	－	－	－	－	－
葉鞘径(mm)		20. 3	21. 1	19. 7	－	－	－	－	－	－
抽台株発生率(%)		0. 7	0. 0	2. 4	0. 0	0. 0	0. 1	0. 1	0. 0	2. 7
青立株発生率(%)		0. 1	0. 1	1. 1	0. 0	0. 1	0. 0	0. 0	0. 0	0. 1
総収量(kg/a)		845	638	899	844	586	872	874	755	953
対標準比		132	100	141	144	100	149	116	100	126
規格内率		73	81	66	92	95	80	84	88	78
平均一球重(g)		325	238	359	299	215	315	303	258	338
球外観品質 ^{注2)}		4. 5	5. 0	3. 7	3. 8	5. 0	3. 2	－	－	－
球形指数 ^{注3)}		86	89	92	87	92	94	－	－	－
貯蔵性(翌春調査)										
健全球率(%)		57. 2	73. 0	22. 1	57. 0	77. 2	11. 0	－	－	－
乾腐病抵抗性										
接種検定発病率(%)		23. 6	13. 6	18. 3	44. 9	20. 9	30. 6	－	－	－
球内部成分										
乾物率(%)		9. 1	10. 3	8. 4	8. 5	9. 8	8. 1	－	－	－
Brix		8. 1	8. 9	7. 2	7. 3	8. 7	6. 8	－	－	－

注1)「北海道野菜地図」の品種特性分類による 注2)硬さ、外皮色、均一性、皮肉程度の各特性を総合的に評価、9(良)～1(不良)。
注3)形径/ヨ径×100

ソテー加工適性評価(A社)

項目 \ 品種・系統名	HT46	スーパー北もみじ
加熱前		
剥皮後歩留率(%)	85.4	85.0
水分(%)	89.3	90.0
Brix	9.2	8.3
加熱後		
製品歩留率(%)	55.0	52.4
加熱時間(分)	98	107
水分(%)	80.4	78.1

注1)H19～20年の2年平均 注2)原材料：訓子府産
注3)加熱後のBrixは約17に設定

一般ほ場と紅色根腐病激発ほ場比較

品種・系統名	調査項目	倒伏期 (月日)	総収量 (kg/a)	同左比 (%)	平均一球重 (g)
HT46	一般ほ場	8/6	814	100	304
	激発ほ場	8/23	633	78	243
スーパー北もみじ	一般ほ場	8/3	641	100	236
	激発ほ場	未達	124	19	80

注)H20年網走管内A町，網走農業改良普及センター調査

2. 「HT46」の特記すべき特徴

青果用品種「スーパー北もみじ」より収量性が高い加工用多収系統である。加工用品種「純心」と比較して収量性はやや劣るものの倒伏期は早く、抽台発生率は低い。貯蔵性と内部成分(乾物率とBrix)は「純心」に優る。紅色根腐病激発ほ場での被害は「スーパー北もみじ」より小さい。

3. 北海道で優良品種に採用しようとする理由

たまねぎ輸入量は20～30万トンであり、主に加工用途向けに消費されている。道内たまねぎ産地では、輸入品への対抗手段として、加工用途の出荷枠を設けて加工用たまねぎの安定供給化を図っている。現在、北海道では大玉多収品種「純心」が加工用として栽培されているが、熟期が遅く、抽台発生率が高いため、作付はごく一部の地域に限られており、加工用の大部分は「スーパー北もみじ」等の青果用品種が使用されている。加工用たまねぎは青果用に比べ価格水準が低いため、青果用品種では収量性が不足し再生産が困難な状況にあり、生産現場では低コスト生産可能な加工用多収品種が望まれている。また実需者からは、歩留りや、作業性の面において大玉である品種が望まれている。

「HT46」は、「スーパー北もみじ」と比べて大玉・多収であり、「純心」より倒伏期が早く、貯蔵性に優れている。また、加工適性においては、むき玉処理作業性に優れ、加熱加工処理時の仕上がり時間は早く、歩留りも高い。こうした点から、本系統を加工用品種として普及することで、生産者および実需者の両者の要望に応えることが可能となる。さらに、紅色根腐病発生ほ場での被害が少ないことから、本病害発生地域のたまねぎ生産にも貢献できると考える。

4. 普及対象地域および普及見込み面積

普及対象地域 全道のたまねぎ栽培地帯

普及見込み面積 150 ha

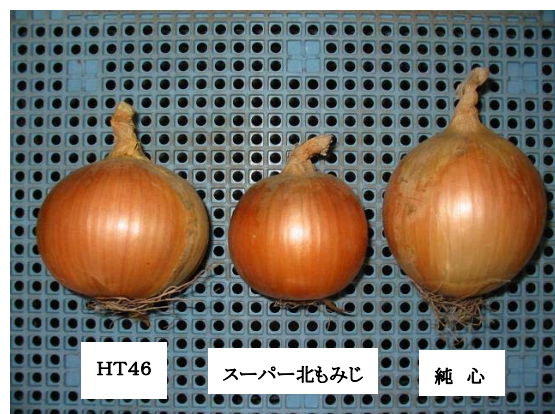
5. 保有種子量および母球数

- | | |
|--------------------------|---------|
| 1) 「HT46」種子 | 4,000 g |
| 2) F ₁ 採種用母球数 | |
| 種子親「PR94504-01-03A」 | 1,500 球 |
| 花粉親「PR94517-01-01m1M」 | 800 球 |
| 3) 「PR94504-01-03A」種子 | 1,000 g |
| 4) 「PR94517-01-01m1M」種子 | 1,000 g |

6. 栽培上の留意点

- 1) 乾腐病抵抗性は「スーパー北もみじ」より劣るので、本病害が多発するほ場での栽培は避ける。
- 2) 耐抽台性は「スーパー北もみじ」ほど強くないため、早期は種や早期定植は避ける。
- 3) 熟期がやや遅いため、生育遅延地域・圃場での作付は避ける。

球の外観比較(平成19年 北見農試産)



紅色根腐病激発ほ場の生育(平成20年 網走管内A町)

